

海外農林業情報 No.62

世界の穀物需給

世界の穀物需給に関しては、先号でお知らせしたところですが、8月12日の米国農務省の発表によると、注目されていた7月下旬と8月初旬の米国中西部の天候が非常によく、トウモロコシは152億トン（前月比6億1,300万トン増）あるいは1エーカー当たり175.1ブッシェル※（前月比7.1ブッシェル増）、大豆は40億6,000万トン（前月比1億8,000万トン増）あるいは1エーカー当たり48.9ブッシェル※（前月比2.2ブッシェル増）と、さらなる増産が予想されています。そのため、シカゴの先物市場からヘッジファンドが引いて行く状況となり、穀物価格が一段と安く、かつ、安定的に推移しています。南半球の生産、さらには欧州等の小麦の生産も好調で、全体として、2016/17年度の穀物の国際価格は、安値安定を続けていくものと思われま

TTIP 協定交渉の動き

英国のEU離脱（Brexit）の国民投票後初めてのTTIP（Transatlantic Trade and Investment Partnership）協定交渉が、7月11日から15日までブリュッセルで行われました。その後の米国側の発表では、ほとんどすべての分野で原案（text）は出来上がっており、今や、一段と相違点を詰め、合意文書を作成する過程に深く入っているとされています。

今回の交渉では、英国のEU離脱問題の影響がどうなるか関心が持たれたところですが、交渉官同士では、「BrexitはTTIPに影響はあるが、この協定は戦略的にも、経済的にもそれを超えて合理性が強い」としています。また、本年中の合意に関しては、十分可能との判断を示していますが、そのためには、まず政治的な意思決定が必要としています。今回の交渉会議を10月としており、特に、9月23日のEU貿易大臣会合、10月20、21日のEU首脳会議における交渉の意思決定待ちというところかと思われま

なお、この会合では、BrexitのTTIP交渉での取り扱いも議論されるのではないかとされています。一部には、この協定は環大西洋と言っている通り、米・EU間で合意した後、ノルウェー、カナダ等他の国の参加を可能とするのではないかと、それなら、英国抜きで米・EU協定にし、後に英国の参加を求めることも可能ではないかとの意見も出ているようです。この中で、英国が関税譲許、サービス譲許を行えば、人の自由移動を抜いた形でのEU諸国との貿易関係の現状維持に近い関係が保てるのではないかとの考えもあるようです。

※ 1ブッシェルは、トウモロコシの場合25.4kg、大豆は27.2kg

文責：森 麻衣子

<参考リンク>

World Agricultural Supply and Demand Estimates Report (WASDE) (USDA、英語)

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

シカゴ先物市場（CME）ウェブサイト（日本語）

<https://www.cmegroup.com/ja/#ag>

Statement by Assistant USTR Dan Mullaney at the 14th Transatlantic Trade and Investment Partnership Negotiating Round (USTR、英語)

<https://ustr.gov/about-us/policy-offices/press-office/speechestranscripts/2016/july/statement-assistant-ustr-dan>

本情報のメール配信をご希望の方は、件名に『海外農林業情報配信希望』と記入した空（から）メールを下記までお送り下さい。ご意見、ご感想もお待ちしています。 E-mail アドレス：desk@jaicaf.or.jp
メールを送付された方には、確認メールをお送りします。送信後 2 週間以内に届かない場合は、お手数ですが 03-5772-7880（担当：西野・森）までお電話下さいますようお願い申し上げます。なお、メール配信をご希望の方には、本ミニ情報のほか、セミナーのご案内等、当協会からのお知らせが届くことがありますので、併せてご了承下さい。

発行：(公社)国際農林業協働協会(JAICAF)

〒107-0052 東京都港区赤坂 8 丁目 10-39 赤坂 KSA ビル 3 階